

コロナに負けない介護コミュニケーション

－感染症対策で失った認知症ケアを取り戻すには？－

感染症対策を徹底した結果、認知症ケアで必要な利用者との関わりが失われ、認知症利用者のQOLは大きく低下しました。未だ終息が見えない中で、少しでも本来のケアを取り戻さなくてはなりません。現場の工夫から生まれた感染対策と両立するコミュニケーションスキルは、きっとあなたの施設の利用者を元気にしてくれるはずです。

今すぐ抜粋版を試聴しよう！（抜粋版7分・本編38分）

●PC版 → <https://youtu.be/vfQVb1Uc9MU> ●スマホ版 →



動画セミナー提供方法

- 提供対象：介護事業者団体・介護事業法人など
- 視聴期間：1ヶ月以上1ヶ月単位で設定
- 提供資料：セミナーテキスト
- 視聴開始：任意の期日を設定できます
- 提供価格：介護事業者団体55,000円（税込）
介護事業法人44,000円（税込）
※配信期間2カ月以上は割増必要

動画セミナー視聴までの流れ

- ①申込書を弊社宛メールで送付
申込書は弊社ホームページで：www.anzen-kaigo.com
- ②弊社より主催者にセミナー視聴ツールを送付
URL・QRコード・パスワード・セミナーテキスト・付属資料
- ③視聴者にURL・QRコード・パスワードを案内
- ④参加者はパソコンやスマホでセミナーを視聴

セミナーの内容

1. 面会制限によるコミュニケーション不足の影響
 - ・家族、利用者、職員をつなぐ全ての関わりが低下
 - ・認知症介護指導者へのアンケート調査の結果
2. 感染対策によるコミュニケーションへの悪影響
 - ・認知症の人のコミュニケーションの構造
 - ・マスクで伝わらなくなった介護職のメッセージ
3. With コロナの認知症ケアとコミュニケーション
 - ・認知症ケアで活用する非言語メッセージ
 - ・表情、しぐさ、態度、視線、声の練習
4. ポジティブな言葉と声と言い回し
 - ・ポジティブを感じさせる非言語チャンネル
 - ・目、眉毛、声で最大限の感情表現

講師：介護と福祉のリスクコンサルタント 川村 亜希

訪問介護事業所、特別養護老人ホームなどを経て福祉専門学校福祉課専任教授を務めながら社会福祉法人研修センター長も務める。2018年12月より株式会社安全な介護のリスクマネジメントセミナー講師を兼任。

非言語メッセージ	内容	相手が受け
表情 目、眉間、口、額	角度、動き	喜び、優し 無関心、怒
しぐさ、態度	腕の位置、視線の高さ ため息、会釈・手を振る	関心、無関心、威圧感、支配、 忌避、面倒、拒絶
触れる	触り方の強さ 感覚	愛情、優しさ、物のような扱い、 嫌悪
声		

表情

◆威圧、怒り、嫌悪、
面倒、困惑、無関心

◆喜び、優し

- ・薄く開いた眼
- ・目じりが下がる
- ・多いまばたき
- ・口角が上がる

マスク着用時の 非言語的コミュニケーション

- ・目を細めると笑っているように感じる
- ・眉毛を動かすと親しみ、ユーモアを感じる
- ・首をかしげると関心が伝わる
- ・会釈や手を振ることで関心が伝わる
- ・語尾を柔らかく上げると優しさが伝わる
- ・ことばに抑揚をつけると感情が伝わる
- ・声は落ち着いた低めの声ではっきりと

残された表情は目と眉毛
感情が一番伝わるのは声

動画セミナーに関するお問い合わせは

株式会社安全な介護 受付担当 澤田

mail:soudan@nanasha.co.jp TEL:03-5995-2275